

# 五月三十一日

(中部) H物流(株) M・M(男性)

5月31日の22時頃の事だった。前日は、大変珍しい事に荷量が少なく私は運休でした。少し忙しい日が続く、愛車の手入れも疎かになっていたので、朝から1日掛けて車内、車外共に念入りに洗車をした。その頃、既に明日(31日)の運行は決まっていた。行き先は我々が拠点とする静岡県は藤枝市から山形県天童市までのバラ積み5トンの運行だった。私の心の中では正直、久しぶりの長距離であったため、少し遠慮がちだったが心の準備は十分整っていた。

次の日の朝、昨日洗車した愛車が車庫で私を待っていた。日常点検、給油を済ませ、積み込み先の工場へと向かった。工場に着くと、私が積む予定の紙袋製品がこれでもかとホームに並べられていた。実はこの紙袋は非常に持ちにくく、また空気が入っている為積みにくい。運転手には嫌われている製品である。破れない様細心の注意を払い、走行中に動かない様、隙間にはしっかりと緩衝材を入れた。正直気を使う仕事だ。

何事もなく積み込みを終え工場を後にした。出発時間は11時半を過ぎていた。その足で私は1度自宅へ戻り運行の支度を整え、12時半頃自宅を後にした。

私は既に頭の中で山形までの経路をイメージしていた。「来月分の運行だから、高速料金は節約していこう。時間には余裕があるし昨日1日自宅でゆっくりできた。睡眠もバッチリ。愛車はピカピカで異常もない。」いろんな気持ちが久しぶりの長距離運行のやる気へと変わっていった。

私のイメージ通り順調に都内に近付いていた。湾岸線に入った頃、ちょうど連続運転4時間となり、大黒パーキングにて30分の休憩を取った。

その頃私は、最初にイメージしていた事とは違う行動に出た。東北道は白河インターで高速に上がるつもりが、疲れも感じず、眠気もなく、目がさえてると勝手に思い込み、そのまま国道4号線を走行し始めたのである。私の頭の中には「これならまだまだ高速料金が節約できる」とその事ばかり考えていた。しかし、実は私は白河インターから先の4号線を数回しか走った事がなかった。だが知らない道ではないため、ためらいはなかった。

バイパスを郡山方面に走っていた頃、後方から大きなマフラー音が聞こえてきた。すると数分も経たない内に私のトラックを追い越そうとする7、8台のバイクをミラーで確認した。あっという間に追い越され、私の目の前で大きい音を出しながら蛇行運転を始めた。この時私は「関わっちゃいけない」と自分に言い聞かせていた。走る内に4車線の広い道になり、私とバイクの集団は3車線目を走行していたが、後に私だけ2車線目へと車線を変更した。そのすぐ先には、左カーブ、Y字の交差点。左2車線は福島方面。右2車線は郡山市街方面の変則的な交差点だった。

あの時私は、バイクの集団がどちら方面に車線変更してくるのか気になっていた。その時事故は起こってしまったのだ。私が2車線目に車線を変更した時、1車線目には大型トラック。2車線目には乗用車とバイクとその後ろに私。そして3車線目にはバイク集団が並行して走っていた。

私はバイク集団に気を取られ、乗用車の存在、そしてその先の信号をも確認できていなかったのだ。気付いた時には信号は赤。既に遅く、目の前の乗用車に追突してしまった。ブレーキは踏んだものの荷物を定量積んでいたため何も効かず、ハンドルも無意識に右にきったものの意味がなかった。交通量も多く二次災害を防ぐため、すぐにハザード、そして発煙筒を準備して乗用車を追いかけた。しかし追突して押し出された勢いのまま、止まろうとしない乗用車を見て私は息を飲んだ・・・。

乗用車を追いかけながら、ガードレールに追突して止まった乗用車を見て、私は頭が真っ白だった。乗用車のドアを開けると、運転席でぐったりとしている運転手さんがいた。

しかしながら、幸いにも運転手さんに怪我はなく、軽い鞭打ちで済んだ。その時は意識が飛んでしまっていたらしく、追突した時の事は覚えていないらしい。

処理を終え、運転手さんを見送り、私は山形へ向かった。事故を起こした直後に運転するのは非常に怖いものがあった。幸いにも私の愛車は自走ができ、ライトも割れていたもののしっかりと点灯していた。さらに幸いにも荷物は傷一つなく、緩衝材が役目を果たしていた。

今回の事故で私は、自分自身本当にショックで悔しい思いをした。この事故でいろんな事を思う。

ちょっとした気の緩み、臆見運転。バイクに気を取られないように速度を落とし集団から離れる勇氣。前の状況を把握するのがいかに大切か。自分では大丈夫と思っていた、体は疲れているかもしれない。少しでも止まって休憩する勇氣。そして何より、相手方、家族、会社、お客様に多大なる迷惑、心配を掛けてしまうこと

今後私は、皆さんには大変失礼かも知れませんが、今回の事故をいい勉強だと思い、今後同じ過ちを絶対に起こさない気持ちで日々がんばっていきたい。また、この事故をきっかけに今まで事故以外でもいろんな形で迷惑、心配、お世話になっている方々に違った形で恩返しできたらと思っている。

そういった気持ちや行動は、私にとっての1番の事故防止なのかもしれない。自分をよく知り、自分を磨き、無事故無違反。周りに優しく、思いやりがあり、小さい時からの夢でもある「カッコいいトラックの運転手さん」を目指していきたい。